

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570102543
法人名	有限会社 美大
事業所名	グループホーム 年輪
所在地	宮崎市大字恒久5983 (電話) 0985-52-4841
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年6月22日

## 【情報提供票より】(19年6月5日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.5

## (2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1階 ~ 1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3万円(一日あたり1000円)	その他の経費(月額)	3000円水道光熱 6000円日用品	
敷金	有( 0 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 0 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(6月22日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2		2名	
要介護3	2名	要介護4		3名	
要介護5		要支援2			1名
年齢	平均 83.7歳	最低	72歳	最高	91歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	南部病院・野崎病院・巴内科外科・早稲田内科神経科医院・中山歯科医院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、田んぼに囲まれ、地元の方たちの散歩コースで環境的に良い場所である。ホームの畑には様々な野菜が植えられ、新鮮な野菜が食卓にあがり季節感を感じさせている。「職員の接遇や介護技術を向上し、利用者の尊厳を大切に、プライバシーを保護された明るく楽しいホーム」を基本に、認知症の方がそれぞれの力を発揮して生活できるよう支援することを目標に熱心に取り組んでいる。地域からは、民生委員・老人クラブ・消防団・自治会からの協力も得られ、うまく関係を築いてきている。「近所のお助け110番」的な取り組みを図りたいという思いがある。代表者は職員の質の向上に繋がるように、働きながら学ぶ研修の機会を確保している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題である台所は、利用者が活動し易いような空間の確保が得られ、危険物は、高い位置や手の届かない所、目にふれない場所に管理してある。第3者を交えた家族会を年に2回開催しサービスの改善につなげている。非常口の出入りについては、消防署の職員にアドバイス頂いている。改善事項全て全職員に周知され、改善にむけ対応されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の一連の過程、評価の意義について、職員も理解しており、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。今回の外部評価の結果も職員会議等で話し合い改善に向け取り組みたいと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2か月に1回開催し、自治会、老人クラブ、民生委員、第3者委員、市町村関係、利用者、家族、職員の代表がそろい、サービスの向上の為取り組んでいる。ホームの状況や自己評価、外部評価を報告し、今後ホームが取り組んでいかなければならない課題等を話し合っている。運営推進会議を行うことで、地域の方と顔なじみが出来てきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年に2回開催し、民生委員、老人クラブ、第3者委員の代表の方も同席し、職員が席を外した中で、家族からの要望・意見を出して頂き、その意見をホーム側はサービスに活かしている。市の介護相談員が月に1回訪問しており利用者、家族の意見や苦情が表せる体制が整っている。家族が面会された際には、利用者の暮らしぶりなどについて話し、良い関係作りに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは代表者の敷地にあり、代表者の地元ということもあり、地域との関わり交流は密で、近所の方々から野菜を頂いたり、花の苗を頂いたりと積極的である。自治会にも加入し、行事にも利用者と共に参加している。「近所のお助け110番」的な取り組みを図りたいという思いがある。地域の方に、利用者とその家族が餃子作りの講習会も開き、利用者の地域との関わりもみられる。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「職員の接遇や介護技術を向上し、利用者の尊厳を大切に、プライバシーを保護された明るく楽しいホーム」を基本に、認知症の方がそれぞれの力を発揮して生活できるよう支援することを目標に取り組んでいる。地域との関わりは特に強いホームであるが、地域密着型サービスとしての理念が作り変えられていない。	○	介護保険法改正に伴い、地域密着型サービスとしての役割が求められてきている。職員全員で、今までの理念を見直し、作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、月に1回の職員会議時に職員に伝え共有化を図っている。ケアの実践を通して理念を具体化し職員と話合っている。又、管理者は職員がケアの内容で行き詰った時など理念に基づき職員が向上できるように一つひとつ説明をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関わり交流は密である。自治会に加入し、清掃等の行事にも利用者と共に参加している。地域との連携をとり、地域に貢献をはかり地域から支えてもらえるホーム作りを心がけられ、「近所のお助け110当番」的な取り組みを図りたいという思いがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の一連の過程、評価の意義について、職員も理解しており、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。外部評価の結果も職員会議等で話し合い改善に向け、評価の一連の過程を大切にしている。前回の外部評価で見出された課題に関しても、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、自治会、老人クラブ、民生委員、第3者委員、市町村関係、利用者、家族、職員の代表がそろい、サービスの向上の為取り組んでいる。ホームの状況や自己評価、外部評価を報告し、今後の課題等を話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連携は常に代表者が取り、ホームの現状や課題等にも話し合っている。又、新ホームの開所を予定されており、特に連携は密に取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1回、利用者の暮らしぶりや写真を掲載し送付している。心身の状態変化の際には、きめ細かに連絡を取り協力を得ている。家族の面会時には、利用者の暮らしぶりなどについて話し、介護計画に反映できるよう関係を良くしている。金銭に関しても、用途や出納帳を明示し確認印を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	民生委員、老人クラブ、第3者委員の代表の方も同席して家族会を年に2回開催し、職員が席を外した中で、家族からの要望・意見出して頂き、ホーム側はサービスに活かしている。市の介護相談員が月に1回訪問しており利用者、家族の意見や不満が表せる体制が整っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近隣に新ホームを開所する予定であり、現在1か月かけて管理者の引継ぎが行われている。利用者・家族のダメージを少なくするように、職員同士の摩り替わりがスムーズに出来るように心がけている。職員の移動の理由や新職員の紹介は、家族会や定期的な便りを使い家族に伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「職員の接遇の向上や介護技術の向上」を理念に掲げており、代表者は職員の質の向上に繋がるように、様々な研修の機会を確保している。管理者以外の職員3名がグループホーム管理者研修を終了している。様々な資格を働きながら学ぶ機会がある。研修後は、復命書を作成し、職員会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会に加入し参加している。又、他のホームと定期的に職員間の1日交換研修も行っている。この交換研修時には、利用者も一緒に行く機会を設け、地域との関わりの場を広げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を考えている利用者・家族に対しては、見学やお茶を飲んだりして過ごしてもらっている。やむを得ず、すぐ利用になった場合は、環境の変化が利用者にとってダメージが大きいことを伝え、数回の面会をお願いしている。又、入所時荷物を数回に分けて持ち運んでもらい、家族との接点を切らないように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、職員や利用者が共に協力し合っている。男性の職員がいるが、女性の利用者は孫のように接し、励ましてもらったりと良い関係を構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の情報や家族会、日頃の利用者の様子、訴え、家族の思いを取り、職員全員が常に「本人はどうしたいのか」という視点を持ち把握に努め、ケアに繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、全職員で検討し取り組んでいる。特に担当職員が、家族や利用者から自分らしく生活するための意見を聞き職員会議で検討している。家族からの意見が取り易いように、日常生活が分かる便りを送ったり、近況報告の電話をしたりして関係を保っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現段階では、3か月に1回見直し6か月ごとに介護計画作成を行っている。見直しにあたっては、利用者ごとに担当者がおり、職員は家族・利用者の意向をくみ介護計画に反映させている。	○	月に1回利用者の検討会を職員会議で行っているため、介護計画に反映できるように、計画に沿った評価と見直しにつなげてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の暮らしが安心して継続ができるように、利用者・家族の状況に応じ、通院、特別な外出等対応している。又、様々な資格を取得した職員が、自分自身の専門性等を活かし支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、家族同伴での通院をお願いしている。通院時には、ホームでの生活状況や身体の状態の変化など書面にし家族に渡している。家族の同行困難な場合や緊急を要する場合は、職員が対応している。近隣の病院で夜間診療も対応してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケアに対して、職員の共通認識はある。現段階で一人の方と今後の希望や意向を話し合っている。看取りの支援が書かれた資料は、入所時家族に配布したり、玄関に常に準備し手にとれるようにしている。近隣の医師と在宅療養支援体制をとっており準備は整っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新入職員は、入社時と3か月後に人権の教育が組み込んである。又、定期的な職員会議の中でも、随時管理者が話している。家族会で定期的に家族に配信される便りの写真に対しても意見を聞き、ルールを守りながら作成している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ごとに職員の担当があり、常に利用者がどのように生活していきたいか、利用者・家族と相談・観察し支援している。買い物、外出、針仕事、塗り絵など得意とすることや希望することに合わせ対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでできた野菜を利用し何の料理にしようかと働きかけたり、利用者と一緒に調理をしたりと食事をするまでの一連の過程を楽しめるように工夫している。一人の利用者ばかりにならないように、声かけている。食事は利用者と一緒にテーブルを囲み楽しく食事が出来る雰囲気を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や回数は、利用者の希望に合わせて対応している。利用者の希望で2人で入られる方もおられる。入浴を拒否される方がいる場合の声かけは、職員を遠えたり時間を変えたり又は、仲の良い利用者から誘ってもらったりと工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や職業歴、趣味などを家族本人から情報を取り、一人ひとりの力が充分発揮できるよう支援している。買い物、食事の準備、調理、片付け、洗濯たため、掃除、園芸と利用者が生活の中で活躍する場面が準備されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日のように近隣の散歩を行っている。又1週間に1回は、買い物デーとなっている。利用者個別に応じ、ドライブや行きたいところへの外出を支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることの弊害を理解し、居室や玄関に施錠していない。入居者の生活パターンを把握し外に出ることに対して支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルが準備されている。避難訓練は、ほぼ毎月利用者も参加して実施している。地域の消防団や地域の老人クラブの協力も得ながら対策を講じている。ホームには職員手作りの簡易担架や毛布を利用した搬送用具が作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士がカロリー・栄養管理している。食事摂取量や水分摂取量は、記録し職員全員が情報共有している。利用者の疾病や状態にあわせた食事作りがなされており、糖尿病食ではボリュームや見た目を工夫し、他の利用者との食事の差が無いよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家作りで家庭的な雰囲気である。共有スペースは、ソファや椅子が準備され、おのおのが居心地良く過ごせるように工夫している。ベランダに出ると、各部屋続きの縁側があり、利用者同士が外の風景を見ながら季節を感じれる空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族からの持ち込みも多く、利用者の好みに応じた環境作りがなされている。カーテンや布団は、持込であり利用者の好みに応じた配所がなされている。		